一般社団法人日本キルギス経済交流協会

第7回理事会 議事録

1. 開催日時：2026年11月18日（水）10:00〜11:00

2. 開催場所：東京都千代田区霞が関3-6-14 三久ビル9F会議室

3. 出席者（敬称略）：

代表理事：樽床伸二

理事：梨木重宏、加藤彰一、四橋道徳、小松原一郎、小林広惕、藤野岳［6名］

社員：長本大将［1名］

4. 議事の経過および結果

第1号議案　決算報告に関する件

第1期（令和7年9月1日〜令和8年8月31日）の決算報告書、および第2期（令和8年9月1日〜令和8年10月31日）の会計報告書について報告が行われ、その内容を確認した。

報告によれば、いずれの期も売上が費用を上回り、黒字を確保していることが共有された。また、現金及び預金についても第1期末から第2期末にかけて増加しており、協会の財政状況はおおむね良好であることが報告された。

これらの報告を踏まえ、今後も健全な会計管理を継続し、安定した財政基盤のもとで協会活動を推進していくことを確認した。

第2号議案　新駐日キルギス共和国大使の就任に関する件

駐日キルギス共和国大使の人事について、2026年11月14日、キルギス共和国大統領府より、ウルマト・トクトグロフ氏が新たに駐日キルギス共和国大使に任命された旨の発表があったことが報告された。同氏は前任のエルキンベク・オソエフ氏の後任となる。

また、同氏は日本語に堪能であり、キルギス国立大学東洋学部において日本を専攻した経歴を有することが共有された。

これを受け、当協会として新大使との関係構築を積極的に進め、駐日キルギス共和国大使館との連携を一層強化していくことを確認した。

第3号議案　キルギスでの商談開始および協会活動の活性化に関する件

キルギスビジネス協議会のメンバーが、キルギス共和国においてビジネス商談を開始したことについて報告が行われた。

これを踏まえ、当協会として、キルギス共和国の政府・関係機関および現地企業との連携を一層強化し、商談を具体的な事業につなげていくため、必要な支援および調整を進めていくことを確認した。

また、新たに駐日キルギス共和国大使が就任したことを機に、大使館との関係を深めるとともに、会員企業のキルギス共和国への進出や取引拡大につながる情報提供およびビジネスマッチングを推進していく方針を確認した。

さらに、今後の商談案件の増加を見据え、特定の役員・担当者に業務が集中しないよう、協会内で案件情報を共有し、案件ごとに適切な担当者またはチームを編成して対応する体制を整備していくこととした。

今後も理事会において各案件の進捗状況を共有し、協会全体として連携しながら、経済交流およびビジネス活動の活性化を図っていくことを確認した。

第4号議案　会員交流会の開催に関する件

会員相互の交流促進を目的として、2027年1月に会員交流会を開催する方向で調整することとした。開催日、会場および参加予定者については今後調整を進め、当協会の会員を招待する予定とした。

本交流会は、会員相互の親睦を深めるとともに、キルギス共和国とのビジネスに関心を有する会員に対し、協会の活動状況や現地における商談の進捗状況を共有する機会とすることを確認した。

また、新たに就任した駐日キルギス共和国大使をはじめ、キルギス側の政府・関係機関の関係者を招待することも含めて検討することとした。

今後、具体的な開催日程、会場および当日の進行内容について調整を進め、詳細が決まり次第、会員に対してメール等で案内することとした。

第5号議案　鉱山関係の案件に関する件

鉱山関係の案件について進捗状況の報告が行われた。キルギス共和国における対象事業について、品質向上を目的とした投資の可能性を含め、関係機関と連携しながら検討を進めていることが共有された。

また、案件の具体化に向け、日本側の関係企業に対してサンプルを提出し、品質や事業性について確認・評価を進めていく方針が共有された。

今後もキルギス共和国および日本側の関係機関・企業との協議や調整を継続し、品質向上に向けた投資の検討とサンプル評価を進めながら、具体的な事業化につなげていくことを確認した。

以上をもって本日の議事をすべて終了した。本理事会の議事の経過および結果を明確にするため、本議事録を作成し、議長および議事録署名人がこれに記名押印する。

令和8年11月18日

一般社団法人日本キルギス経済交流協会 第7回理事会

代表理事　樽床伸二

議事録署名人　加藤彰一

議事録署名人　藤野岳